

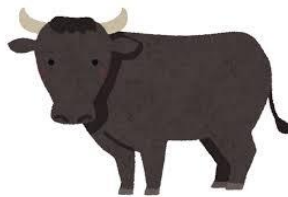
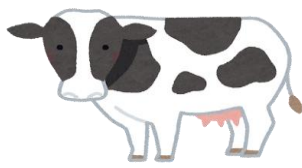
# 家畜衛生だより

令和8年6月発行 No.9  
庄内家畜保健衛生所  
庄内地区家畜畜産物衛生指導協会  
TEL 0235(68)2151  
FAX 0235(66)2466

## 暑熱対策について（牛編）

舎内温度

乳用牛 25℃以上 肉用牛 30℃以上



**繁殖成績  
生産性  
低下の原因に**

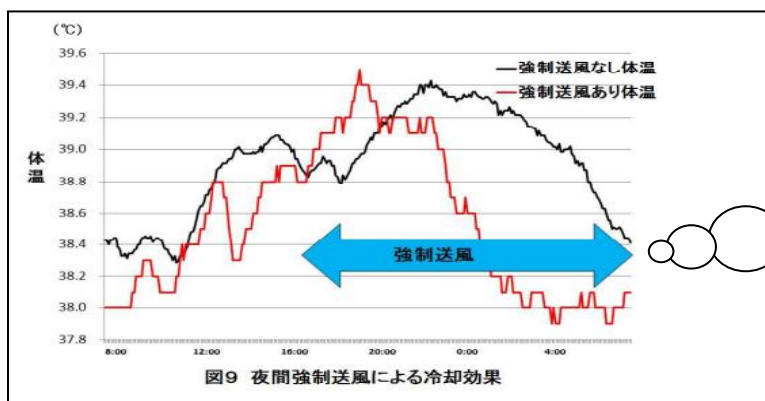
気象庁の3か月予報によると今夏の気温も高いと予想されています。  
暑熱対策は畜舎環境と飼養管理に大別されますが、これらを組み合わせることが効果的です。早めに対策し、夏を乗り切りましょう！

### 《畜舎環境の対策》

○ **屋根や畜舎側面(壁、窓、出入口)の遮光、断熱**

○ **換気、送風**

- ・ 窓の開放、換気扇や送風機の利用（風が牛へ直接当たるように）
- ・ 夜間に強制送風を行うなど



夜間強制送風で体温が下がると、乳量の低下を抑制することができます

○ **冷却**

Dairy Japan 2019年4月「乳牛の体温動態に応じた暑熱対策についての検討」より抜粋

- ・ 屋根や周囲地面への散水
- ・ 畜舎内では細霧発生装置と送風機の併用  
(湿度が高いときには使用しない、噴射時間と休止時間を設ける)
- ・ 牛体への散水

## 《飼養管理の注意事項》

- 新鮮な水を十分に飲めるようにする（ウォーターカップの点検・清掃）
- 密飼いをしない
- 涼しい時間帯（早朝・夜間など）に飼料給与し、給与回数を増やす
- 鉍塩又は塩分・重曹の給与、抗酸化作用のあるビタミン、ミネラル（セレンや亜鉛）の補給
- 飼料の品質劣化に注意し、飼槽をきれいにする（残渣の除去）
- 毛刈りをする

## 《特にリスクが高い牛について》

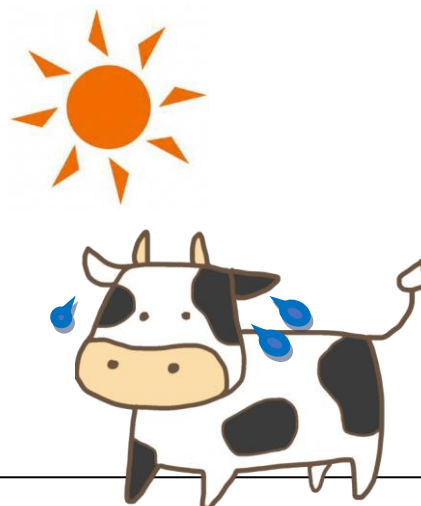
高泌乳、分娩前後、肥満、基礎疾患（乳房炎、肺炎、腸炎）等がある個体は、重篤な熱射病を起こしやすくなります。涼しい場所へ移動させましょう。

## 《以下の症状が認められた場合はすぐに対応を！》

- 飼料の食込み量低下（残飼の増加）
- 目の充血、ひどいよだれ、呼吸が荒い



- 四肢から胸へと徐々に水をかける
- 送風で体を冷やす
- かかりつけの獣医師の診察を受ける



暑熱の影響は秋以降の生産性低下にもつながります。

早めに対策を実施し、暑熱被害を最小限に抑えましょう！

**暑熱対策のご相談やドロマイト石灰塗布用動力噴霧機  
についてのお問い合わせは、庄内家畜保健衛生所まで**

**電話番号 0235-68-2151**